

## <新館紹介>

# 新潟大学学術情報基盤機構附属図書館（中央図書館）

高井 真利子, 長谷川 順子, 上原 正隆



写真1 メインストリートに臨む中央図書館の夕景

### はじめに

新潟大学学術情報基盤機構附属図書館（以下、「中央図書館」）は平成25年3月増改修工事を終え、4月にリニューアルオープンした。中央図書館の基本コンセプトは、①ラーニング・コモンズ機能、②アーカイブ機能、③インフォメーションラウンジ機能の強化にあり、ICタグで管理された50万冊収容の自動化書庫の設置により書架の狭隘化を解消するとともに、開放的な学習空間を確保し、2,500m<sup>2</sup>超のラーニング・コモンズや1,400m<sup>2</sup>超のインフォメーションラウンジ等の新たな機能を整備した。これらの施設をベースに教育組織等との連携を図り、図書館の利用環境の整備と学修支援機能の強化を実現した<sup>1) 2) 3) 4)</sup>。

### 1. 建物のコンセプトとフロア構成

既存棟（以下、「A棟」）の北側に新館（以下、「B棟」）をコの字型に増築し、屋上庭園を囲む循環動線を持つ活動的な図書館として再生した。

ラーニング・コモンズやインフォメーションラウンジ等の新機能を備えたB棟と紙媒体資料を配架するA棟とを東西の回廊で繋ぎ、循環性を高めるとともに一体感をもたせ、館全体に無線LAN環境やパソコン等のICT環境を整備し、電子資料と印刷

媒体資料を有機的に結びつけたハイブリッド・ライブラリーを実現した。

A棟の中央部分には館内が一望できる大きな吹抜けと3層の階を貫く立体動線を新設し、先の回廊とあわせ、利用者のアプローチが自然で、明るく開放的な図書館を演出している。

北側のメインストリートに面したB棟は、柔らかな曲線を持つ3階建ての建物で、2階と3階は大きな窓ガラスと杉板の外壁との市松模様で彩られ、1階は一面ガラス張りとなっており、道行く人々からインフォメーションラウンジ等の様子がつとに窺える印象深いデザインとなっている。

B棟1階のメインエントランスの前には、シンボリックなサークル状のキャノピーが設けられ、メインストリートから図書館を経て中央広場に向かうキャンパスの回遊性を表現している。

シンボルツリーである桑の木をはじめ、建物回りの樹木をそのまま保全した。そうした樹木の緑や屋上緑化の芝の緑が憩いのひと時を与えてくれる。

中央図書館はリニューアルにより約1.5倍の面積に拡充されたが、「既存の図書館の特徴を生かしながら最適な再生方法を検証」した設計<sup>5) 6)</sup>となっている。

## 新館紹介

### 1.1 ゾーニング

A棟・B棟のゾーニングと施設等は以下のとおりである。

表1 中央図書館の建築概要

階	A棟		B棟	
1	雑誌フロア 2,540m <sup>2</sup>	自動化書庫, 貴重資料室, マイクロ資料室, 本学関係資料室	インフォメーション ラウンジ 1,400m <sup>2</sup>	ライブラリーホール, ライブラリーギャラリー
2	図書フロア 2,220m <sup>2</sup>	視聴覚ルーム, 研究個室	ラーニング・コモنز 1,300m <sup>2</sup>	ワーキングエリア, プレゼンエリア, 外国語学習支援スペース (FL-SALC), スピーキングブース, 少人数ブース
3	図書フロア 1,800m <sup>2</sup>	リフレッシュスペース, しずかエリア	ラーニング・コモنز 1,200m <sup>2</sup>	ワーキングエリア, ICT 講義室, メディアラボ, グループ学習室

\*面積に管理スペースは含まない。

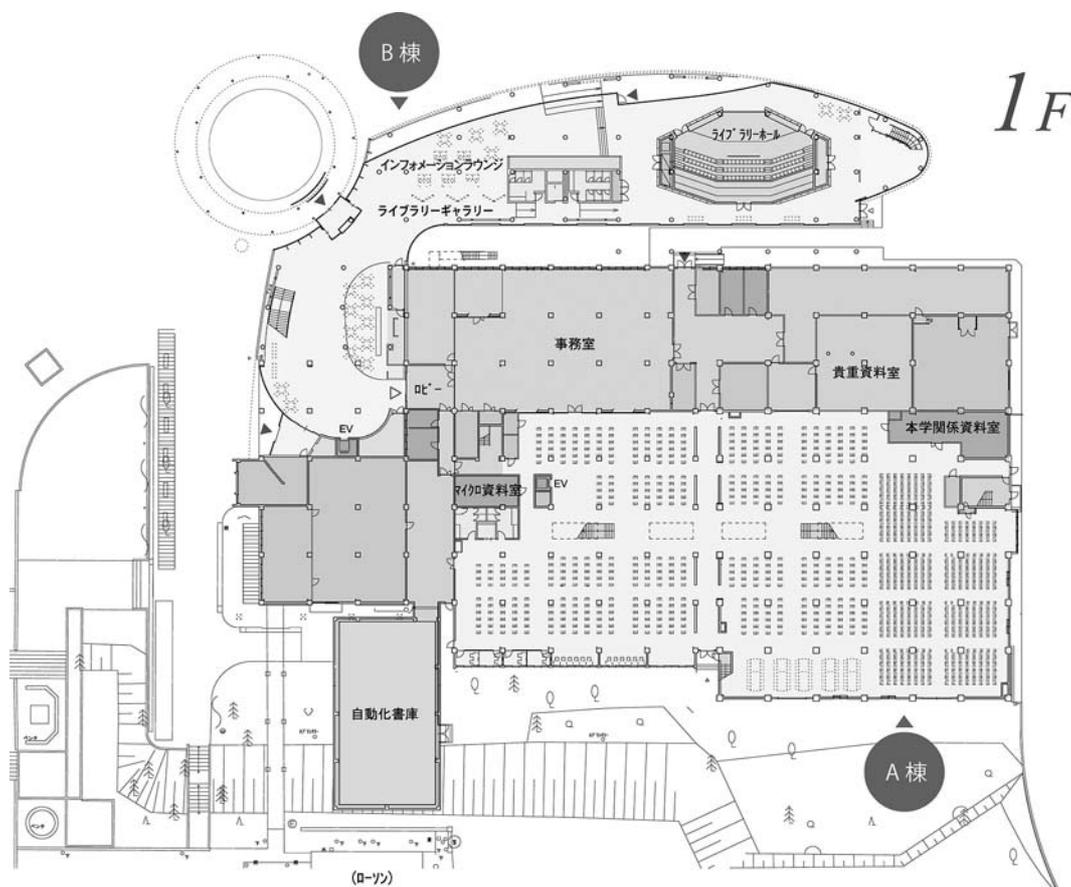


図1 中央図書館のフロア略図 (1階)

### 1.2 図書館機能の強化

平成24年8月の中央教育審議会の答申<sup>7)</sup>において主体的な学修を促す学士課程教育の質的転換が必要とされ、また、平成25年6月閣議決定された「教育振興基本計画」<sup>8)</sup>においては、学生の主体的な学びの確立に向けた大学教育の質的転換のための学修支援環境整備のひとつとして、学修のベースとなる図書館の機能強化促進が求められている。さらに、平成25年8月の科学技術・学術審議会学術分科会学術情報委員会の「学習環境充実のための学術

情報基盤の整備について(審議まとめ)」<sup>9)</sup>においても、学修環境の充実に資する学術情報基盤整備の在り方として、コンテンツ・学習空間・人的支援の充実とその有機的連携の重要性が指摘されている。このような教育改革の潮流は、本学の第二期中期目標・中期計画<sup>10)</sup>およびアクションプラン2012-2013<sup>11)</sup>においてもラーニング・コモنزの整備や機関リポジトリの充実を掲げ反映されている。

中央図書館増改修計画の策定に当たり、「快適かつ機能的な知の空間で豊かな学士力を育む新潟大学

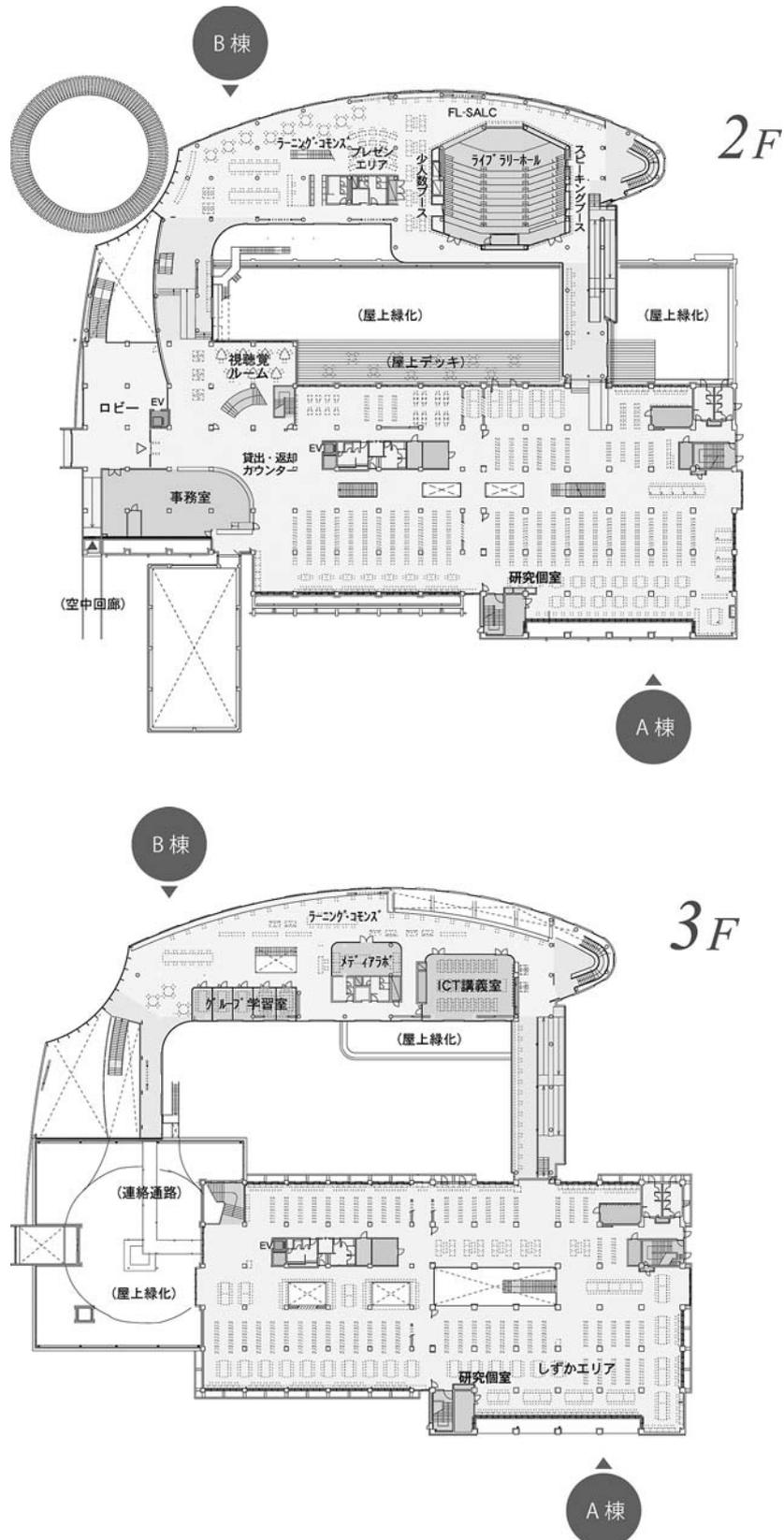


図2 中央図書館のフロア略図 (2階および3階)

の教育研究活動を支える図書館」を実現するために、①ラーニング・コモンズ機能、②アーカイブ機能、③インフォメーションラウンジ機能の強化を基  
本コンセプトとした。



写真2 A棟に新設された吹き抜け

### 1) ラーニング・コモンズ機能

本機能は学生の協働的・自律的な学習のための快適かつ機能的な環境を提供し、ネットワークを利用した情報の収集・加工・発信のための設備や人的支援を提供するものである。

B棟2階のラーニング・コモンズには、ワーキングエリアのほか、中央にプレゼンエリア、東側に外国語学習支援スペース（FL-SALC）が配置されている。B棟3階のラーニング・コモンズには、同じくワーキングエリアのほか、グループ学習室、ICT講義室、メディアラボが設置されている。



写真3 3階ラーニング・コモンズ

全体で2,500m<sup>2</sup>を超えるオープンスペースに350席の閲覧席が用意されており、多様な学習スタイルに対応できる学習空間である。グループ学習室等の部屋もすべてガラス張りになっており、開放的で透明性の高い形態となっている。グループ学習を主体とした自習の様子や授業の様子が他の学生や教員の刺激となり、「見る」、「見られる」学修環境が能動

的学修の活性化に効果を与えている。

### ①ワーキングエリア

学生たちは可動式の机や椅子、ホワイトボードなどを自由に組合せて、自分たちのスタイルに合った学習空間を作っている。

また、各階に学生や大学院生のラーニングアドバイザーを配置し、情報検索、PC操作、レポートの書き方等の相談に応じている。ラーニングアドバイザーの相談窓口は、平日13時～16時の間、2名体制で運用している。学生目線で行われるピア・サポートサービスである

### ②プレゼンエリア

短焦点のプロジェクターを壁上方に設置して、壁をスクリーンとして使用する。可動式の机と椅子を18席用意し、学生同士のプレゼンテーションの発表・練習のほか、プレゼンテーションをテーマとしたオープンセミナー等で活用されている。

### ③外国語学習支援スペース（FL-SALC）<sup>12)</sup>

FL-SALCはエフエルサルクと読み、Foreign Language Self-Access Learning Centerの略称である。約400m<sup>2</sup>のスペースに約50席の外国語学習のための多様なスペースが用意されている。



写真4 FL-SALCのチャットコーナー

FL-SALCは、ア) DVDやオンライン資料等の電子資料を含む外国語学習資料約2,400点、イ) 英会話や発音練習ができるスピーキングブース、ウ) 留学生との交流に使われるチャットコーナーや少人数ブースなどのコミュニケーションスペース、エ) 英語学習アドバイザー、留学生チューターおよび英語担当教員によって行われる外国語学習プログラムの人的サポートから構成されている。

FL-SALCの運用デザインは教育部門の教員や国

際部門の事務との連携により整備された。そうした連携の詳細はⅡ-2-1)で紹介する。

#### ④少人数ブース

FL-SALCのカウンターに隣接した一角に、ファミリーレストランのようなテーブルとソファを誂えたブースを4つ設置しており、各ブースは4人程度が向かい合って利用できる。人気スポットになっており、学生同士のグループ学習のほか、FL-SALCの英語カウンセリング等によく活用されている。



写真5 少人数ブースのグループ学習風景

#### ⑤グループ学習室

6人収容の5室を用意している。部屋の間仕切りは透明で可動式になっており、間仕切りを動かして大部屋にすることができる。予約なしで自由に利用できる部屋と予約専用のものがあり、予約申込は図書館システムからオンラインでできる。学生同士のグループ学習のほか、FL-SALCの外国語学習のオープンセミナー等によく活用されている。



写真6 ガラス張りで開放的なグループ学習室

#### ⑥ ICT 講義室

教育用パソコンを60台設置し、電子ジャーナル

やデータベースなどインターネット上の情報を利用することができる。また、情報リテラシー等の授業や図書館ガイダンスでの利用のほか、予約のない時間は自由に学生が利用できる。



写真7 60台の教育用PCを配置したICT講義室

#### ⑦メディアラボ

研究発表用のポスターや教材作成のための画像編集用PCやスキャナ、大型プリンタ等を設置している。大型プリンタはクロス(布)印刷も可能なもので、クロス製ポスターは海外で開催される学会やポスターセッション等への持運びに便利である。

#### 2) アーカイブ機能

本機能は新潟大学が収集した学術資料を媒体、形態、特質等に応じて適切に整理・保管し提供するものであり、また、本学で生産された学術情報や報告資料を電子化して蓄積し、発信するものである。自動化書庫、貴重資料室の整備や新潟大学学術リポジトリ(Nuar)<sup>13)</sup>、新潟県地域共同リポジトリ(NiRR)<sup>14)</sup>の整備が挙げられるが、後者については別の機会にご紹介することとしたい。

#### ①自動化書庫

A棟西側に隣接して建てられた幅12m×高さ12m×奥行23mの建屋(シェード)に、幅10.8m×高さ約9.6m×奥行約16.6mの自動化書庫が設置されている。蔵書の収容冊数は約50万冊で、現在、約40万冊が格納されている。図書は大きさ別にA4型、B5型、A5型のコンテナに奥行2列で格納され、3基のスタックークレーンによって保管ラックから取り出され、搬送台車に乗ってコンベアーで出納ステーションに運ばれる仕組みである。図書の検索から出庫まで、OPACと連動したコンピュータシステムの管理下であり、1回の出庫時間は、最初のコンテナの到着が8分程度で、その後は30秒

間隔で搬出される。当館の出納ステーションは自動化書庫に隣接する A 棟の 2 階と 1 階に設置されており、格納されるコンテナは約 10,000 ケースに上る。

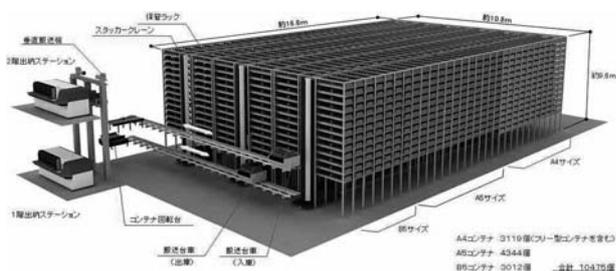


図3 自動化書庫の全容(イラスト)

図書の管理は IC タグで行っている。現在使用する IC タグの仕様は UHF 帯 950MHz で、指向性能が広く、通信距離は 3m までである。IC タグの大きさは 5mm × 135mm でタトルテープのような形状であり、折曲げ破損の可能性が低いといわれている。検知力が高く、複数図書を同時に処理できるため、蔵書点検や貸出返却処理の効率化に効果的である。

## ②貴重資料室

115m<sup>2</sup>の貴重資料室と 27m<sup>2</sup>の貴重資料調査室(以下、「前室」)からなる。図書館が所蔵する「佐野文庫」などの和漢の古典籍や地方古文書等の貴重資料を適切な環境で保管するために、調湿・耐火機能が高い貴重資料室を設置した。扉は 30 分耐火仕様でガス消火設備をもつ。内装は下地・仕上げ材を二重張りにしており、既存の鉄筋コンクリート壁からアルカリ性汚染物質が書庫内に透過することを防いでいる。



写真8 「佐野文庫」が収められた貴重資料室

壁・天井には空気層を設け、室内の温湿度環境を保護している。室温は古文書の保管に適した 25℃、

湿度は 50%~55% の設定とし、環境を維持するために、パッシブインジケーターによる室内の酸アルカリ測定を定期的実施している。照明器具には紫外線吸収膜付蛍光灯を用いている。

前室の閲覧室側の壁には展示ケースをはめ込んだ形の展示コーナーが設けられ貴重資料をショーウィンドウで常時公開している。



写真9 展示コーナー

## 3) インフォメーションラウンジ機能

本機能は、B 棟 1 階に位置するインフォメーションラウンジを、図書館のステークホルダーである学生、教職員、卒業生、地域住民、受験生などの学内外の利用者が気軽に交流できる場とするとともに、大学からの教育研究等の情報発信の場とするものである。

いわゆる図書館ゲートが設置されていない約 1,400m<sup>2</sup>のオープンプローアには、ライブラリーホールのほか、ライブラリーギャラリーが設置されている。ライブラリーホールでは学内外のシンポジウムや学会等が開催され、ライブラリーギャラリーでは、学内他部署との連携を図り、本学の教育研究成果のポスター展示やオープンセミナーなど様々な企画が行われている。

無線 LAN 環境も整備しており、飲食も可能としているため、80 席ほどの座席では、学生が持込み PC や資料を揃えてグループ学習する姿がよく見られ、第二のラーニング・コモンズ的な利用も多くなっている。

ライブラリーホールやライブラリーギャラリーの催事に訪れた人々が、多くの学生が学習する様子や図書館の活動をまのあたりにして帰ることで、図書館への理解と支援に繋がっている。

## ①ライブラリーホール

ライブラリーホールの収容人数は 260 名で、高解

像度プロジェクター等の映像音響設備のほか、参加者が持参したPCを利用できるように、客席には電源や無線LAN環境が整備されている。これまで五十嵐キャンパスには大ホールの施設がなかったことから、中央図書館の中にシンポジウムなどが開催できるホールを新設することは教員の大きな関心呼び、工事期間中から利用予約の問合せが相次いだ。実際、シンポジウムや学会の開催をはじめ、秋季の卒業式・入学式など学内行事でも大いに利用されている。



写真10 ワインレッド色調のライブラリーホール

平成25年4月～6月の間に11回の行事で利用され、1,442人の参加があり、研究活動あるいは大学活動の場として活用されることにより、情報発信と学術研究交流を含む人的交流に一役買っている。

## ②ライブラリーギャラリー

本学の先端的研究を紹介するポスター展示、大学院生の研究成果を発表するポスター展示、文部科学省「情報ひろば」で開催していた本学の最新研究成果である水素製造・インフラ構築についての巡回展示、オープンキャンパスでの大学紹介、キャリアセンターのオープンセミナー、学生サークルによるコ



写真11 「情報ひろば」の巡回展

ンサートなどが開催された。図書館が企画しシリーズ化しようとする催事とともに、「県内企業と新潟大学との懇談会・展示会」など学内の事業の会場に活用される機会も増えており、学内外の人々が集う交流の場としての利用が定着してきた。

## 1.3 その他の施設、アメニティ向上の工夫

A棟、B棟に囲まれた1階屋上に芝生を貼り屋上庭園を整えた。隣接するA棟2階のテラスにはテーブル席を20席配し憩いの空間としている。A棟2階、3階にはリフレッシュスペースを設けている。壁一杯の窓から木々の緑が広がりリラックスできる。

館内はゾーニングに従って、明るくカラフルな色合のフロアカーペットで識別されている。館内サインのフロアマップもカーペットの色と合わせ、わかりやすく美しい標示となっている。

A棟2階、3階に研究個室を各3部屋設置した。2階は自由利用とし、3階は大学院生以上の予約利用としている。

A棟2階に視聴覚ルームを新設した。隣席との間仕切りやカーペットの色合いにも配慮したシックな色調の空間でリラックスして視聴覚資料を視聴できる。

また、従来型の静寂な読書空間・学習空間としてA棟3階に「しずかエリア」を設けている。



写真12 リフレッシュスペース

## 1.4 省エネ・自然再生エネルギー活用の取組み

増改築工事により延床面積は約9,700m<sup>2</sup>から約14,200m<sup>2</sup>に拡張され、工事前の約1.5倍の規模になったが、太陽光発電設備のB棟屋上への増設や1,120m<sup>2</sup>の屋上緑化の整備等により、エネルギー消費を抑え、自然再生エネルギーを活用した環境に配慮した施設となっている。

加えて、B棟空調設備のナイトパーズの採用、外部に面したガラスの複層ガラスの採用、B棟カーテ

ンウォールの Low-E ガラスの採用、LED 照明の採用、昼光センサを使用した日中の照明照度の抑制および、点滅区分の細分化による調光の工夫等により省エネを図っている。



写真 13 A 棟と B 棟の回廊に囲まれた屋上緑化

### 1.5 建物概要

表 2 中央図書館の建築概要

建物面積	B 棟 (増築棟)	1,725.27m <sup>2</sup>
	A 棟 (改修棟)	4,422.92m <sup>2</sup>
	自動化書庫棟	321.06m <sup>2</sup>
延床面積	B 棟	4,129.95m <sup>2</sup>
	A 棟	9,766.99m <sup>2</sup>
	自動化書庫棟	314.4m <sup>2</sup>
構造規模	B 棟	鉄骨造(一部鉄筋コンクリート造) 3 階建て
	A 棟	鉄筋コンクリート造 3 階建て
	自動化書庫棟	鉄骨造 1 階建て
閲覧席数	1,460 席(ライブラリーホール 260 席を含む)	
収蔵冊数	120 万冊 (自動化書庫 50 万冊を含む)	
設計・監理	監理	国立大学法人新潟大学 施設管理部施設管理課
	設計	(株)環境デザイン研究所
	施工業者	建築工事：(株)銭高組 機会設備工事：三機工業(株) 電気設備工事：米沢電気工事(株) EV 工事：三菱電機ビル テクノサービス(株)
工事着工	平成 23 年 11 月 19 日	
工事竣工	平成 25 年 3 月 15 日	

### 2. 学内の関係部署との連携・協働

中央図書館の増改修に当たり、2,500m<sup>2</sup>規模のラーニング・コモンズ機能および 1,400m<sup>2</sup>規模のインフォメーションラウンジ機能をどのように実現

し、運用するかがひとつの課題であり、教育組織をはじめとする学内関係部署との連携・協働が鍵となった。

本学の教育・研究の本部機能は 4 つの機構に整理されている。図 4 のとおり、教育・学生支援機構、研究推進機構、産学地域連携推進機構および学術情報基盤機構が設置されている。

附属図書館は学術情報基盤機構に所属し、情報基盤センター、旭町学術資料展示館とともに学内の学術情報基盤を支えている。

ラーニング・コモンズの運用デザインについては、教育・学生支援機構の教育支援センターや大学教育機能開発センター（以下、「大教センター」と連携し、検討を進めた。

教育支援センターは授業の開設に関する全学的な調整と学士課程および大学院課程における体系的な教育課程の編成等を担当し、大教センターは教育職員等の教育能力の向上を担当している。

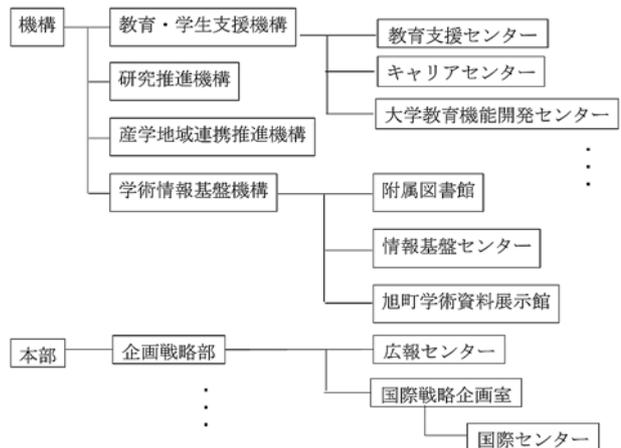


図 4 新潟大学の機構関係組織図

### 2.1 大学教育機能開発センターとの連携

#### 1) 図書館をテーマにした全学 FD の開催

新図書館は、これまでの教育研究活動の支援機能の充実とともに、学生中心の教育観に立ち学習支援の機能を重視し、リニューアルした。この教育観のもとで、学内の教育・学習改革を進めているのが大教センターであり、新図書館と大教センターの連携が強化されている。つまり、新しい教育観に基づいて整備された新図書館の学習支援機能を活用するために、以下のように FD (Faculty Development) を共催したり、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の開発や初年次教育での情報検索指導で連携している。

平成 24 年 10 月、大教センターと共催して、「能動的な学習を支援するラーニング・コモンズ～新図

書館を拠点として～」をテーマに新潟大学第30回全学FD<sup>15)</sup>を開催した。



写真 14 図書館をテーマとした全学 FD

附属図書館長の講演「新しい中央図書館に期待できる最新機能—ラーニング・コモンズ、情報リテラシー教育」や、図書館職員、関係教員、学生からのアクティブ・ラーニングへの活用などの話題提供や事例報告をもとに、ラーニング・コモンズをはじめとする学生の自律的な学習を支援する施設を備えた新しい図書館の利活用について話し合った。

このことが、大教センターや教育支援センターの関係者にとどまらず幅広い範囲での教員、関係部局、学生等とのパイプを作っていくひとつのきっかけとなった。

## 2) プレゼンテーションをテーマにしたオープンセミナー

ラーニング・コモンズでは、学生同士のグループ学習のほか、教員によるアクティブ・ラーニングを指向したオープンセミナーや授業が開講されている。



写真 15 オープンセミナー

「TED」<sup>16)</sup>の手法を参考にしたオープンセミナーを毎週水曜日の昼休みを利用して大教センターの教員がラーニング・コモンズのプレゼンエリアで実施している。すぐれたプレゼンテーションの実践例を参考にして、学生自身が実際にプレゼンテーションを行うことで、プレゼンの技術や英語学習の向上を図っている。

## 3) 情報リテラシー教育における授業連携

これまでも図書館では大教センター等と連携して情報リテラシー教育を行っており、「全学教養教育を支援する情報リテラシー教育活動の試み」が認められて、平成13年度に国立大学図書館協議会賞を受賞したところである。

大教センターが初年次教育やキャリア意識形成のために開発した科目「わが学問・教育」、「大学生活を考える」、「学生企画プロジェクトベース学習」および「同農業編」では、情報リテラシー教育の時間が設けられている。その時間は図書館が協力し、図書館職員が講師になり、蔵書検索、情報検索指導、図書館ガイダンスを担当している。同様に各学部の授業科目でも教員の要請により、情報リテラシーの時間を設けている。



写真 16 文情報リテラシーの授業風景

## 2.2 教育支援センター

### 1) 外国語学習支援スペース (FL-SALC)

FL-SALCの運用デザインは教育・学生支援機構教育支援センター外国語教育部門（以下、「外国語教育部門」）との連携により整備された。外国語教育部門は外国語教育の改善を担当している。

同部門では平成22年度から継続して「外国語の「自律的な学習」のための学習環境の整備」に取り組んでおり、全学部に通じた言語習得と自主学習の場を、学内に点在させることなく、学生が集まりやすい図書館内に整備したいという意向があった。

これが、新図書館におけるアクティブ・ラーニングの環境を拡充して教育支援の面で機能充実を図りたいという図書館の戦略と一致し、中央図書館のラーニング・コモンズの一部にFL-SALCを整備するきっかけとなった。

外国語学習に求められる多様な学習形態を想定し、必要とされる外国語資料・設備・人的支援、FL-SALCのレイアウト、外国語学習プログラムの企画・広報など、FL-SALCの運用に関する多岐にわたる事案について検討を重ねた。

外国語教育部門では、平成25年4月のFL-SALC本稼働に先立ち、平成24年4月から講義棟の一室でFL-SALCパイロット版の試行運用を開始した。10人程度のグループ学習ができる小規模な教室で、主に昼休みの時間帯に運用していた。パイロット版の利用および課題の分析を手掛かりに、中央図書館に設置するFL-SALCの運用デザインが固められた。

FL-SALCで催される外国語学習プログラムには、①英語学習アドバイザーによる「英語学習カウンセリング」、②英語・ドイツ語・フランス語を母国語または第二言語とする留学生チューターによる「英語・初修外国語（ドイツ語・フランス語）チャット」、③英語担当教員による「テーマ別グループ学習」などがある。



写真17 FL-SALCのチャット風景

①の「英語学習カウンセリング」は個人またはグループが対象で、リピーターも多く、実践的な上達方法の効果的なアドバイスが好評である。②の英語・初修外国語のうち、英語チャットは平日毎昼休みに開催されており、留学生チューター2~3名と日本人学生15名ほどが活発に英会話を楽しむ様子が見られる。加えて、③の「テーマ別グループ学習」は「英文法をもう一度」「目指せTOEICスコアアップ」などのテーマで随時開催されており、こ

うした自由参加型のグループ学習等のプログラムが連日開催されている。

**FL-SALC 第1学期活動予定表「場所、図書館3階 ラーニングコモンズ」**  
(※6月10日からの仮スケジュールです。)

※英語・初修外国語チャット、英語グループ学習 → 予約不要。定員、各限あり。  
※英語学習アドバイザーによるチャット → 予約制。予約日: 20~21:30, 12:30~14:00, 16:00~18:00, 19:00~21:00。電話での予約は、055-242-4373まで。  
※留学生チューターによるチャット → 予約制。予約日: 20~21:30, 12:30~14:00, 16:00~18:00, 19:00~21:00。電話での予約は、055-242-4373まで。

日	時	内容	場所	備考
1週	10:00-11:00	英語学習アドバイザーによるチャット	英語学習アドバイザーによるチャット	10:00-11:00
	12:30-14:00	英語学習アドバイザーによるチャット	英語学習アドバイザーによるチャット	12:30-14:00
2週	10:00-11:00	英語学習アドバイザーによるチャット	英語学習アドバイザーによるチャット	10:00-11:00
	12:30-14:00	英語学習アドバイザーによるチャット	英語学習アドバイザーによるチャット	12:30-14:00
3週	10:00-11:00	英語学習アドバイザーによるチャット	英語学習アドバイザーによるチャット	10:00-11:00
	12:30-14:00	英語学習アドバイザーによるチャット	英語学習アドバイザーによるチャット	12:30-14:00
4週	10:00-11:00	英語学習アドバイザーによるチャット	英語学習アドバイザーによるチャット	10:00-11:00
	12:30-14:00	英語学習アドバイザーによるチャット	英語学習アドバイザーによるチャット	12:30-14:00
5週	10:00-11:00	英語学習アドバイザーによるチャット	英語学習アドバイザーによるチャット	10:00-11:00
	12:30-14:00	英語学習アドバイザーによるチャット	英語学習アドバイザーによるチャット	12:30-14:00
6週	10:00-11:00	英語学習アドバイザーによるチャット	英語学習アドバイザーによるチャット	10:00-11:00
	12:30-14:00	英語学習アドバイザーによるチャット	英語学習アドバイザーによるチャット	12:30-14:00
7週	10:00-11:00	英語学習アドバイザーによるチャット	英語学習アドバイザーによるチャット	10:00-11:00
	12:30-14:00	英語学習アドバイザーによるチャット	英語学習アドバイザーによるチャット	12:30-14:00
8週	10:00-11:00	英語学習アドバイザーによるチャット	英語学習アドバイザーによるチャット	10:00-11:00
	12:30-14:00	英語学習アドバイザーによるチャット	英語学習アドバイザーによるチャット	12:30-14:00
9週	10:00-11:00	英語学習アドバイザーによるチャット	英語学習アドバイザーによるチャット	10:00-11:00
	12:30-14:00	英語学習アドバイザーによるチャット	英語学習アドバイザーによるチャット	12:30-14:00
10週	10:00-11:00	英語学習アドバイザーによるチャット	英語学習アドバイザーによるチャット	10:00-11:00
	12:30-14:00	英語学習アドバイザーによるチャット	英語学習アドバイザーによるチャット	12:30-14:00

表3 FL-SALC 外国語学習プログラム日程表 (平成25年6~7月)

### 2.3 教員との協働

1) ライティングをテーマにしたオープンセミナー  
経済学部の教員と大教センター等の教員が中心となって、学生のレポートや論文を作成するために必要な技能の修得を目指したレポート添削アシスタント養成プログラムの開発を試みている。大学院生や上級生が実際にレポートを添削することによりライティング技術の向上を目指すもので、昨年度に続き図書館と協働して、レポート添削に関わるオープンセミナーも開催した。セミナーの内容は、「添削すべき問題の発見」、「参考文献・引用の仕方」、「日本語の文章技術」や図書館職員が担当する「情報検索法」などである。なお、このセミナーにラーニングアドバイザーを参加させ、レポート作成に関する質問への対応など、レファレンス対応のスキルおよび資質の向上を図っている。

### 2) パスファインダーの提供

授業支援の新しい取り組みとして、教員と連携してパスファインダーを試作<sup>17)</sup>し、関連図書を集め、パスファインダーコーナーを設けた。経済の専門科目を担当している教員との連携を図り、作成に当たり、シラバスの情報をベースとしつつ、より広い視点に立ち、授業のテーマの周辺にも目を配り、専門的視野に広がりを持たせた内容とした。今後は1年生向けの授業科目を中心にパスファインダーの作成に取り組む予定である。

3) キャリア支援をテーマにした授業のオープン化  
 キャリアセンターの教員によるキャリア教育の授業をラーニング・コモンズのワーキングエリアやインフォメーションラウンジのライブラリーギャラリー等を使って実施している。講義室にはない、ラーニング・コモンズ等のオープンスペースにおいて「見る」、「見られる」効果が学生の授業への取り組みやモチベーションを高めている。



写真 18 キャリアセンターの授業風景

## 2.4 事務部門との連携

FL-SALC の利用環境の整備について、グローバル人材育成推進事業<sup>18)</sup> <sup>19)</sup> を促進する国際課やカリキュラムの運用を所掌する教務課とも打合せを重ね、両課から語学学習資料や什器類の整備に加え、英語学習アドバイザーや留学生チューターの人的配置について支援を得た。

また、インフォメーションラウンジにおける大学の教育・研究成果の情報発信や中央図書館のリニューアルに関するマスコミ報道や学外向広報誌への記事掲載などについて、広報室の協力を得ている。

## 2.5 学術情報基盤機構としての連携

学術情報基盤機構のもとに附属図書館<sup>20)</sup>、情報基盤センター<sup>21)</sup>、旭町学術資料展示館<sup>22)</sup> が組織され、事務部門も学術情報部のもとに学術情報管理課・学術情報サービス課・情報企画課の3課が一体的に組織されており、相互の連携と円滑な運用に大いに資するものとなっている。

### 1) 情報基盤センター

情報基盤センターは、全学のコンピュータシステムやネットワークの管理・運営やネットワークを利用した基盤研究など、学術研究・情報教育の環境整備を担当している。中央図書館には館全体に無線

LAN 環境が整備され、あわせて、約 140 台の PC が設置されており、紙媒体と電子媒体資料等の多様な図書館資料を学習目的に即して利活用できる環境を実現している。設置している PC の内訳は、教育用 PC80 台（全学の教育用パソコンの約 10% に当たる）、図書館が設置した 30 台のデスクトップ PC と貸出用ノート PC30 台である。これらの ICT 環境の配置とネットワーク環境の安定的な運用は、ICT に精通した情報基盤センターの教職員との円滑な連携に支えられている。

### 2) 旭町学術資料展示館との連携

旭町学術資料展示館は学内の学術標本等の保存と展示を行う施設である。中央図書館を含め学内の 4 箇所をサテライトミュージアムとして位置づけ、所蔵資料の企画展示、常設展示を行っている。中央図書館のリニューアルオープンに際して「佐渡金銀山」をテーマに、展示館所蔵の金山掘に使われた水揚げ機と図書館所蔵の絵図等の企画展示を行った。

## 2.6 学生との協働

### 1) 図書館学生サポーター

学生目線による図書館のサービス改善や図書館活動を活性化することを目的として、図書館学生サポーター（以下、「学生サポーター」）を組織し、協働してイベント等を実施している。



写真 19 図書館学生サポーターの見学ツアー

学生サポーターの中心メンバーは、PBL (Project-Based Learning 課題解決型学習) の講義から発生したチームが立ち上げた学生サークル「ジョイフリー」のメンバーである。中央図書館のラーニング・コモンズでサークル活動を展開したいという学生サポーターの希望と、学生との協働を模索していた図書館の思いが一致し、活動に繋がっている。

平成 25 年 4 月のリニューアルオープン記念式典の館内見学ツアーでは、学生サポーターが案内役を務めて好評を博した。

このほか、平成 25 年 6 月の附属図書館長と学生との懇談会「館長と語ろう」や、平成 25 年 8 月のオープンキャンパスでの企画、「おすすめ読書」と「新大生からのダイレクトメッセージ」では、学生サポーターが企画・運営に主体となって取組み、実施された。



写真 20 プレゼンエリアで行われた「館長と語ろう」

## 2) 新図書館紹介ビデオの制作

学生サークル「映画倶楽部」と協働して、新図書館紹介ビデオを作成し平成 25 年 4 月に公開した。ナレーション付の 8 分間のビデオは、常時インフォメーションラウンジで上映されている。新図書館の見どころをコンパクトに紹介しているため、見学ツアーの事前ガイダンスとしても活用している。

## 3. 今後の展望

リニューアルオープンして半年が過ぎようとしている。訪れる学生たちから「使ってみたくなる図書館」といったメッセージがたびたび寄せられ好評であり、そうした様子が利用者の伸びにも現れている。平成 25 年 4 月～6 月の入館者は約 29 万人で、増改築工事前の平成 23 年度の同時期と比較して 1.8 倍に増加した。平日の利用者は 1.7 倍で、土・日・祝日は 2 倍となっている。授業のない週末にも図書館の利用が伸びており、学修環境の整備が学習時間の伸びに結びついていることが推察される。また、学外者の入館者数も平成 23 年度の同時期と比較して、約 2 倍となっており、地域貢献の一助をなしていると思われる。

施設のリニューアルと同時に、教育部門等と連携した新たなサービスがスタートし、また、貸出等の利用条件も緩和しサービスの拡充を行った。こうし

た準備の諸相を通して、図書館職員の姿にも活気が感じられる。今後、図書館機能の強化をする上で、教育部門をはじめとする学内の関連部門の教員、職員、学生等との緊密な連携が一層重要であり、こうした連携を調整ができる人材育成が必要である。

また、「インフォメーションラウンジ機能」の項 (I-2-3) で、インフォメーションラウンジが第二のラーニング・コモンズとして学生に利用されていることに触れたが、当初のコンセプトが利用者の利用動態により変化している一例であり、こうした利用者の動向とニーズを的確に把握し、一層の学修環境の整備に努めることが重要である。

教育改革、大学改革が進展する中、利用環境の整備による図書館の学修支援機能強化が一層重要になっている。当館では、教育部門と諸々のチャンネルを通して、能動的学修に対応した利用環境の整備に努めてきたが、今後、①これをより組織的な連携に高めること、②利用者の動向とニーズをよく把握して利便性を一層高めること、加えて、③印刷媒体・電子媒体を含めた学習コンテンツを一層充実したものにして、その利活用を図ることが課題である。

## 注記および参考文献

- 1) 新潟大学. “中央図書館がリニューアルオープンしました”. (オンライン), [http://www.niigata-u.ac.jp/top/pickup/250405\\_01.html](http://www.niigata-u.ac.jp/top/pickup/250405_01.html) (参照 2013-09-17)
- 2) “「知の拠点」完成 - 新大中央図書館県内最大規模に”. 新潟日報 2013 年 4 月 3 日
- 3) “新潟大学中央図書館リニューアル - 自立的な学修を後押し、書庫を自動化、40 秒で手元に”. 毎日新聞 2013 年 4 月 4 日
- 4) 新潟大学附属図書館. “大学を元気にするわくわく図書館”. (オンライン), [http://www.lib.niigata-u.ac.jp/about\\_us/activities.pdf](http://www.lib.niigata-u.ac.jp/about_us/activities.pdf) (参照 2013-11-07)
- 5) 株式会社環境デザイン研究所. 新潟大学 (五十嵐) 中央図書館新鋭その他工事計画説明. [平成 24 年 5 月 17 日], p.2.
- 6) 特集 + 建築デザイン研修所創立 45 周年. 近代建築. 2013. Vol.67, no.9, p.100-105.
- 7) 文部科学省中央教育審議会. “新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～ (答申) 平成 24 年 8 月 28 日”. (オンライン), [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm) (参照 2013-09-17)
- 8) “第 2 期教育振興基本計画”. (オンライン), [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/keikaku/detai-](http://www.mext.go.jp/a_menu/keikaku/detai-)

- l/1336379.htm (参照 2013-09-17)
- 9) 科学技術・学術審議会学術分科会学術情報委員会.  
“学修環境充実のための学術情報基盤の整備について  
(審議まとめ)” 平成 25 年 8 月 21 日. (オンライン),  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/25/08/1338778.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/08/1338778.htm) (参照 2013-09-17)
- 10) 新潟大学. “新潟大学中期目標・中期計画・年度計画”. (オンライン),  
[http://www.niigata-u.ac.jp/profile1/40\\_plans\\_010.html](http://www.niigata-u.ac.jp/profile1/40_plans_010.html) (参照 2013-09-17)
- 11) 新潟大学. “新潟大学アクションプラン 2012-2013～  
新潟大学の更なる機能強化に向けて”. (オンライン),  
<http://www.niigata-u.ac.jp/top/pickup/240402.html> (参照 2013-09-17)
- 12) 新潟大学教育・学生支援機構英語企画部. “新潟大学  
全学英語ポータルサイト”. 外国語学習支援スペース  
FL-SALC (エフエルサルク). (オンライン),  
<http://verba.ge.niigata-u.ac.jp/english/support.html> (参照 2013-09-17)
- 13) 新潟大学附属図書館. “新潟大学学術リポジトリ  
HP”. (オンライン),  
<http://repository.lib.niigata-u.ac.jp/> (参照 2013-09-17)
- 14) 新潟大学附属図書館. “新潟県地域共同リポジトリ  
HP”. (オンライン),  
<http://nirr.lib.niigata-u.ac.jp/> (参照 2013-09-17)
- 15) 新潟大学 教育・学生支援機構. “新着情報”. 第 30  
回全学 FD 「能動的な学習を支援するラーニング・  
コモンズ ～新図書館を拠点として～」を開催しま  
す. 更新日 2000-10-12. (オンライン),  
<http://iess.niigata-u.ac.jp/detail.html?idx=119>,  
(参照 2013-09-17)
- 16) NHK. “スーパープレゼンテーション”. (オンライ  
ン),  
<http://www.nhk.or.jp/superpresentation/about/>,  
(参照 2013-09-17) ※ TED はアメリカの非営利団  
体で文化・芸術・科学・ICT などの最先端を行く  
人たちのプレゼンテーションの動画を世界に無料  
で配信しており, これを NHK が E テレで放送し  
ている。
- 17) 新潟大学附属図書館. “平成 25 年度 パスファイ  
ンダー HP”. (オンライン),  
[http://www.lib.niigata-u.ac.jp/find\\_more/pathfinder/h25.html](http://www.lib.niigata-u.ac.jp/find_more/pathfinder/h25.html) (参照 2013-09-17)
- 18) 新潟大学. “文部科学省・平成 24 年度「グロー  
バル人材育成推進事業」に採択されました”. (オン  
ライン),  
[http://www.niigata-u.ac.jp/top/pickup/240928\\_02.html](http://www.niigata-u.ac.jp/top/pickup/240928_02.html) (参照 2013-09-17)
- 19) “国際社会で活躍する未来のリーダーを育てます”.  
「新潟日報」ティーンのための新潟日報 広告特集.  
新潟日報 2013 年 1 月 20 日
- 20) 新潟大学附属図書館. “新潟大学附属図書館 HP”.  
(オンライン),  
<http://www.lib.niigata-u.ac.jp/> (参照 2013-09-17)
- 21) 新潟大学情報基盤センター. “新潟大学情報基盤セ  
ンター HP”. (オンライン),  
<http://www.cais.niigata-u.ac.jp/> (参照 2013-09-17)
- 22) 新潟大学旭町学術資料展示館. “新潟大学旭町学術  
資料展示館 HP”. 更新日時 2013-09-05. (オンライ  
ン),  
<http://www.lib.niigata-u.ac.jp/tenjikan/> (参照  
2013-09-17)
- 
- < 2012.10.10 受理 たかい まりこ 新潟大学学術  
情報部学術情報サービス課情報調査係長, はせがわ  
じゅんこ 新潟大学学術情報部学術情報サービス課長,  
うえはら まさたか 新潟大学学術情報部長 >